

1. カーボンハーフ、ゼロエミッションの取組について

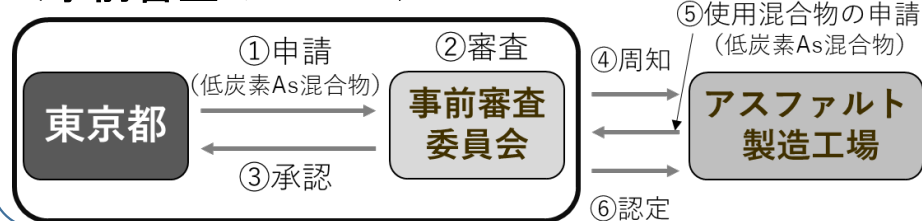
- ◆ 都は、2030年カーボンハーフ、2050年ゼロエミッションの実現に向けて、公共工事の低炭素化を推進。
- ◆ 道路の表面に使用される低炭素（中温化）As混合物について、全国で初めてAs混合物事前審査委員会で承認。活用拡大。



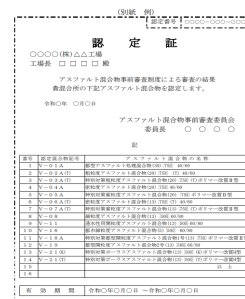
＜事前審査制度＞

アスファルト混合所から出荷するアスファルト混合物を、事前に第三者機関（官・学・民によるアスファルト混合物審査委員会）が認定することにより、従来の工事ごとに行っていた基準試験（配合設計などを含む）や試験練りなどを省略できる制度

＜事前審査のフロー＞



事前に試験練りを省略



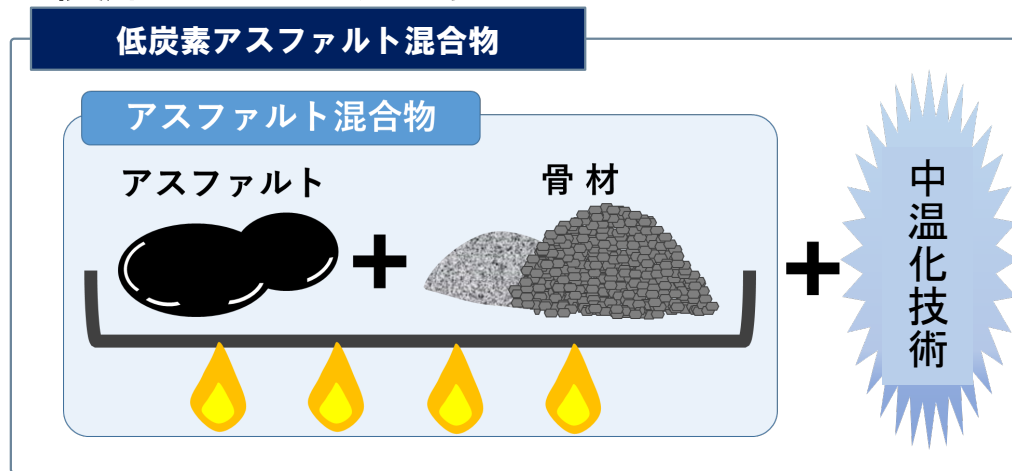
認定証があれば

地球にやさしい、低炭素（中温化）アスファルト混合物。

私たちが歩いたり、自動車や自転車で移動したりするために利用する道路。この表面に使われる主な素材がアスファルト混合物です。

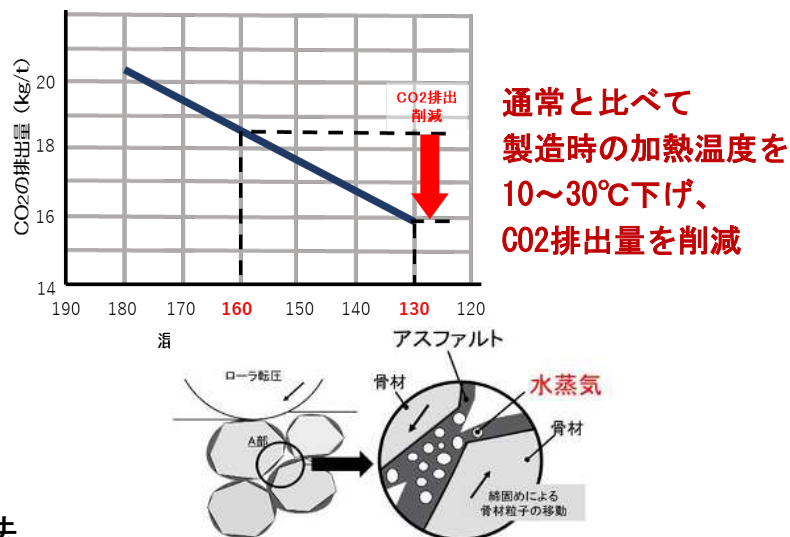
低炭素（中温化）アスファルト混合物は、従来のアスファルト混合物と比較して、製造・施工温度を低減することができる技術を導入した材料です。通常のアスファルト混合物の製造・施工には高温が必要ですが、中温化技術※を採用することで、より低い温度で同等の品質を確保できます。低温での製造・施工は、特に燃料の高温加熱に伴うエネルギーの浪費を軽減し、従来の製造方法と比較して環境にやさしくなります。

アスファルト混合物には、新規骨材を使用したものとアスファルトコンクリート再生骨材を使用したものがあります。



※中温化技術

- ・加圧水蒸気などを用いて発生させた微細な泡を用いる方法
- ・特殊添加剤を添加する方法



中温化技術例—水蒸気泡の滑り効果で締固め性能が向上
出典『中温化（低炭素）アスファルト舗装の手引き』
（一般社団法人日本道路建設業協会）

2.低炭素（中温化）アスファルト混合物の混合所情報の把握に「Re:Earth」を活用

課題

- ◆ 持続可能なサプライチェーンの実現のため、低炭素（中温化）As混合物を取扱う認定混合所が簡単に分かること

解決

→都市構造可視化ツール「Re:Earth」を用い、低炭素(中温化)アスファルト混合物の混合所情報を可視化

東京都建設局HP

取扱混合所早わかりマップ（Re:Earth）

XY座標

- ・ 建設局事務所
- ・ As混合所

As混合所

- ・ 所在地
- ・ 半径15kmの円
- ・ 所名
- ・ 認定証のURL
- ・ 外観

認可証
URL

As混合物
事前審査
委員会
（日本道
路建設業
協会）

場所・認可証等

A混合所

B混合所

C混合所

D混合所

E混合所

東京都

建設局
港湾局
住宅局
水道局
〇〇局

区市町村

〇△□〇
〇△□□
区市町村

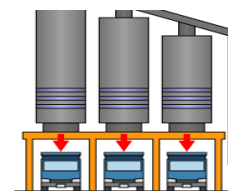
発注者

他県など

〇△□〇
〇△□公
県市公社団



ゼネコン



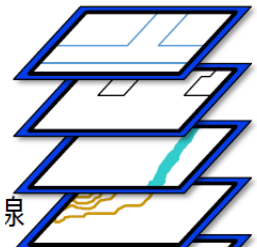
混合所

受注者

3.オープンソースの地理情報システム「Re:Earth」の特徴

＜実用性＞情報のマッピング

- ・専門技術なしでも簡単に扱うことができる（ベンダーロックインを回避）



建設局事務所
As混合所情報
半径15kmの円
半径15kmの円



＜独自性・新規性＞様々なプラグイン

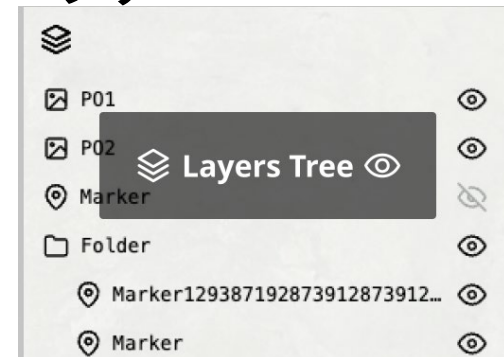
- ・Re:Earthをもっと自由に活用するため、様々なプラグインが準備されている。

サークル ジェネレーター プラグイン



任意のマーカーを中心として、円を作成することが可能

レイヤーツリー

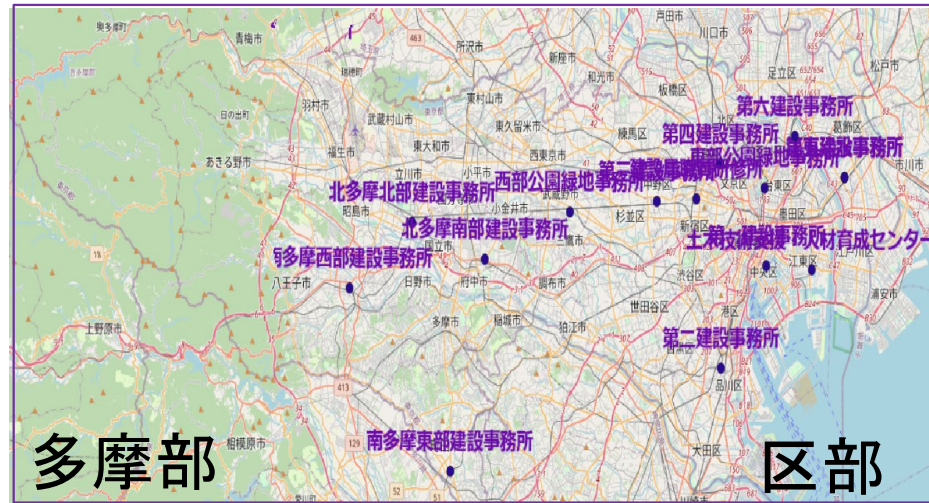


閲覧者が任意のレイヤーに対して表示、非表示を選択することが可能

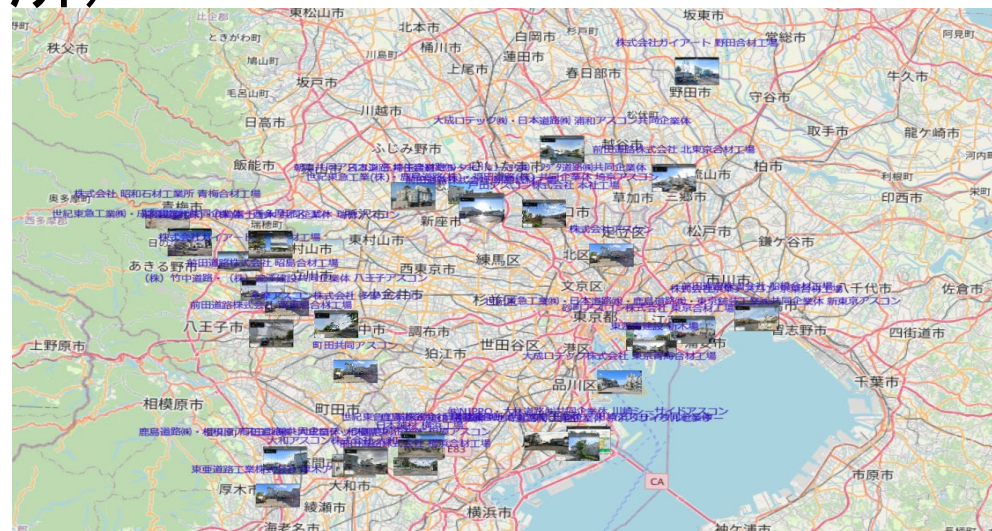
4. 情報のマッピング

(建設局の事務所、低炭素As混合物取扱混合所)

◆ 事務所とAs混合所の位置座標情報から、簡単に位置を表示



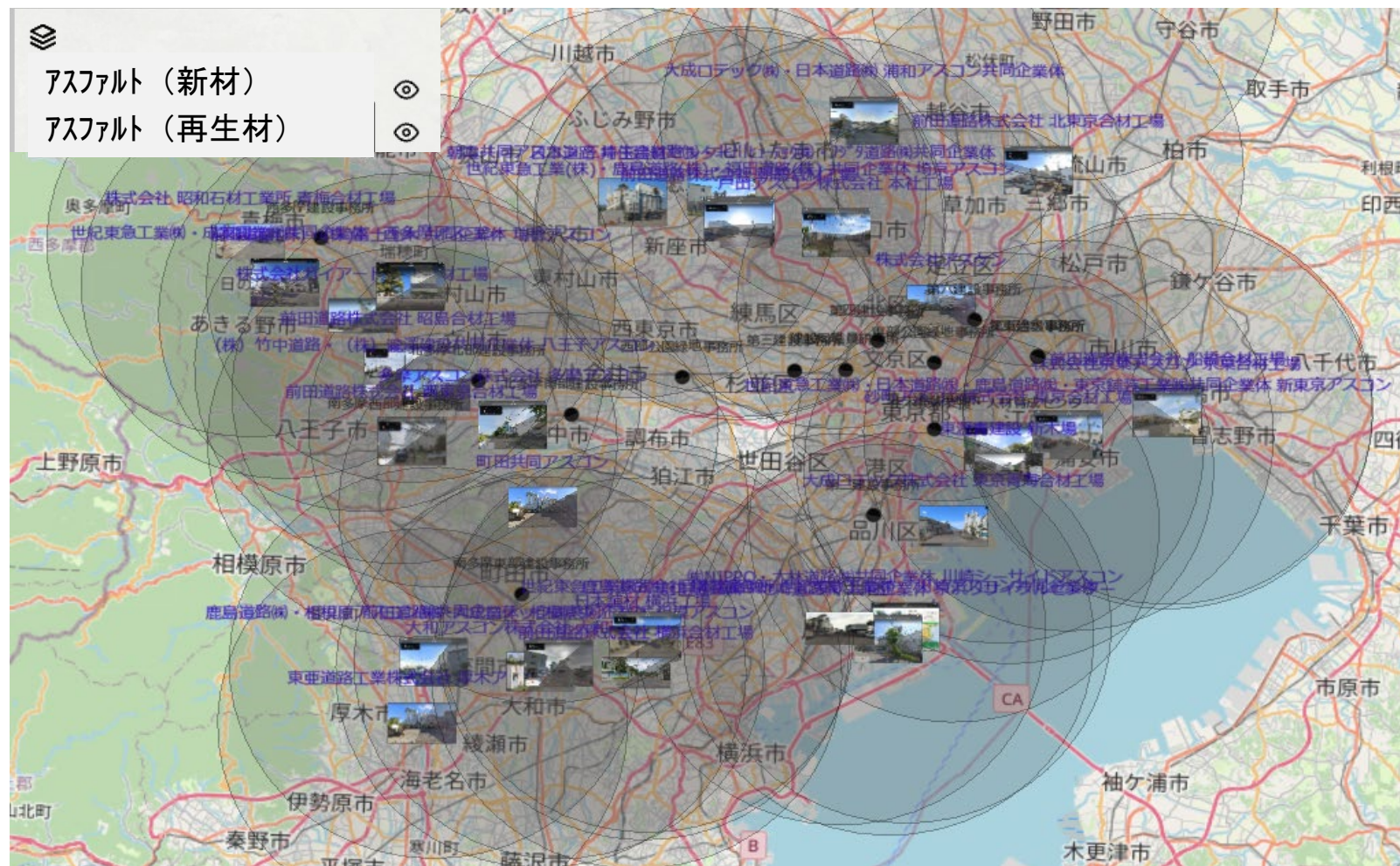
事務所（16か所）



低炭素As混合物取扱混合所（現在34か所）

5.半径 15 kmの円、レイヤーの表示・非表示を設定

- ◆ 各取扱混合所を中心として、円を表示。
- ◆ アスファルト混合物の種類（新材、再生材）を表示、非表示。



東京都建設局 ～未来を創ろう みち・水・緑～

◆ 公共工事の低炭素化を推進し、2030年度までの目標達成、2050年のカーボンニュートラルを目指して取組みを強化。

